

# 2015ジュニアニュースNo.2

第2号 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟

発行日:平成27年2月19日(木)

発行所:東京都中央区日本橋1-16-6 久富ビル4階

Tel:03(3281)7788

「2015ジュニアニュースNo.2」をお届けいたします。

指導者の皆様におかれましてはご確認よろしくお願ひ申し上げます。

今回の連絡事項は下記のとおりです。

1. 「2015東西・全日本・国際ジュニア大会」要項について
2. 女子Cクラス情報について
3. 連盟主催の研修会及び大会の演技写真撮影・使用について
4. 登録について(重要)
5. (公財)日本体操協会「審判委員会からのお知らせ」・「女子体操競技情報」について

## 1. 「2015東西・全日本・国際ジュニア大会」要項について

2015年に開催されます東西・全日本・国際ジュニア大会の要項についてご連絡いたします。

昨年と大きく異なる部分のみ抜粋いたします。それ以外の年度の変更当につきましては各大会要項をご確認ください。大きく変更する部分は以下の通りです。

### 【東西・決勝大会】

- ・女子Cクラスは2015年より新しい規定演技が採用されます。
- ・東西大会終了後の決勝大会エントリーについてですが、指定された時刻までにエントリーを完了しない場合、次点の選手が繰り上がりとなります。
- ・女子E得点賞は東西大会のみになります。

### 【選手権大会】

【男子】3.「参加資格」に文言が追加されました。要項(案)をご参照ください。

【女子】平成27年度より女子もシードチーム一班から二班に追加されます。

- 3.「参加資格」②前年度上位4チームは最終日の最終班、また、前年度上位5～8位チームは最終日朝I班とする。個人シード選手(昨年まで優秀選手)12名は、上位6名は最終班、残りの選手については朝I班とする。シード選手の数が12名に満たない時は、フリー抽選とする。の文言が追加されました。

- 5.「国際ジュニア大会」国際ジュニア採点規則は男女共にFIGジュニアルールとなり、前回まで跳馬は1本でしたが、27年度より正式に種目別の予選として2本の跳躍が必要となります。

※上記変更につきましてご注意ください。よろしくお願いいたします。

## 2. 女子Cクラス情報について

平成27年度より採用される女子Cクラス規定演技の追加・補足説明文(別紙)並びにハナマル項目ができあがりましてので通達いたします。別紙をご確認ください。

## 3. 連盟主催の研修会及び大会の演技写真撮影・使用について

本連盟は連盟主催のイベント時に撮影をしております。それら写真は報告書及び連盟主催の大会のポスター、プログラム、機関誌、HPへの使用を目的としています。各選手の肖像利用につきましては、研修会、大会参加申込みと共に了解を得たものといたします。ご了承いただきますようお願いいたします。なお、写真掲載を希望されない場合は事前に連盟事務局にご連絡いただけますようお願い申し上げます。

## 4. 登録について(重要)

平成27年度の加盟並びに役員選手登録に関する資料は3月末日に発送する予定です。加盟年会費は4月1日から4月30日の期間で指定の口座にお振り込みください。年会費の3月中のお振り込みはなされないようお願いいたします。また、お振り込みの際は、必ずクラブ名にてお願いします。何らかの事情で無理な場合は事前にご連絡をお願いいたします。領収書の宛名書きがクラブ名と異なる場合も事前にご連絡ください。

役員・選手登録につきましては昨年と同じようにまず都道府県協会の登録を済ませていただき、連盟に登録していただく手順となります。都道府県協会に登録されただけでは、連盟への登録は完了しません。連盟への登録が完了しているかわかりやすくするために、27年度よりWEB登録をされた指導者・選手の方々に連盟登録番号をご連絡します。各大会、研修会の登録の際にはこの「連盟登録番号」を記入していただく事とします。WEB登録が完了した後連盟より「連盟登録番号」を記載した登録者一覧をご返送いたします。その一覧を基に申込をして下さい。今後協会のWEB登録No.は記入していただく事はありません。従って東西ジュニア大会に参加される方は、必ず4月30日までにWEB登録(都道府県と連盟)を完了して下さい。その他の方は、5月30日までにWEB登録(都道府県と連盟)を完了して下さい。登録の手順、詳細につきましては後日お送り致します登録資料をご覧ください。

## 5. (公財)日本体操協会「審判委員会からのお知らせ」・「女子体操競技情報22号」について

平成27年2月10日付けで(公財)日本体操協会審判委員会より「審判委員会からのお知らせ」並びに2月16日付けで「女子体操競技情報22号」が発表されましたので通達いたします。女子情報につきましては選手権1部にも適用されますのでご周知をお願いいたします。

◆審判委員会からのお知らせ(1種カテゴリー制度導入等) 先般、開催された平成26年度全国代表者連絡会議にてご連絡した、本協会1種公認審判員のカテゴリー制の導入及び本協会主催日本選手権(世界大会代表選手 選考競技会)に出場する監督・コーチの1種審判講習会受講に関するお知らせをいたします。該当する監督、コーチ、審判員の皆様におかれましては、各都道府県協会で開催される講習会を受講されることをお願いいたします。

◆女子体操競技情報22号を配信いたします。関係者への周知をお願いします。

日本体操協会では、リオデジャネイロオリンピック強化委員会女子体操競技強化本部による2015年強化指針と審判委員会女子体操競技審判本部による2015年採点指針、国内内規およびFIGからの採点規則の変更、修正等をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

(公財)日本体操協会ホームページ: [http://www.jpncgym.or.jp/wp-content/uploads/2015/02/15\\_jud\\_info.pdf](http://www.jpncgym.or.jp/wp-content/uploads/2015/02/15_jud_info.pdf) 並びに <http://www.plus-blog.sportsnavi.com/jpngym/article/2277>

詳細は上記(公財)日本体操協会HPをご確認ください。

# 2015西日本ジュニア体操競技選手権大会実施要項(案)

主 催 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟  
共 催  
主 管 佐賀県体操協会  
後 援 (公財)日本体操協会

協 賛

## 1. 期 日

平成27年 7月22日(水)セッティング 本会場練習 リーダー会議  
23日(木)審判会議 開始式 男子Bクラス競技(1日目)女子C/Bクラス  
24日(金)男子Bクラス競技(2日目)女子C/Bクラス 男子円馬決勝大会 C/Bクラス表彰式  
25日(土)男女Aクラス競技(1日目)  
26日(日)男女Aクラス競技(2日目) Aクラス表彰式 閉会式  
※女子C/Bクラスの参加人数によって日程が変更することがあります。

## 2. 大会会場 〒849-0923 佐賀県佐賀市日の出1-21-15

佐賀県総合体育館 TEL0952-32-2131

## 3. 練習会場 なし

## 4. 参加資格

区 分	男 子		女 子
年会費	平成27年度の年会費を完納したクラブ		
登 録	当連盟に27年度の登録を済ませた者		
Aクラス	①小学校5年～中学校3年まで ②1団体最大6名	Aクラス	①小学校5年～中学校3年まで ②1団体最大6名
Bクラス	①小学校1年～小学校6年まで ②1団体最大6名	Bクラス	①小学校3年～小学校6年まで ②B・Cクラスで合計6名
円 馬	①小学校6年生以下の男子(Bクラスと兼ねても 単独でも出場可) * Aクラス出場者は除く。	Cクラス	①小学校1年～小学校6年まで ②B・Cクラスで合計6名
その他	①A・B・Cクラスに参加する者は、前年度迄に全日本ジュニア体操競技選手権大会(選手権の部)に出場した者を除く。 ②保護者または医師の承諾を得ること。		

## 5. 競技方法

※すべてに於いて「FIG版競技規則」に準ずる

区 分	男 子		女 子
Aクラス	①男子ジュニア規定演技[レベル1] ②花丸ルール適用	Aクラス	①ジュニア連盟女子Aクラス採点規則 (2013年版変更規則Ⅱを適用) 個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*) E得点賞対象
Bクラス	①男子ジュニア規定演技[レベル3] ②あん馬は「あん馬1」を採用 ③花丸ルール適用	Bクラス	①ジュニア連盟女子Bクラス採点規則 (2013年版変更規則Ⅱ、一部変更して適用) 個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*) E得点賞対象
円馬1	①旋回20回(閉脚10回+開脚10回)の大きさ、 美しさの質で順位を決定する。	Cクラス	①ジュニア連盟女子Cクラス規定演技を 採用し、個人総合・種目別を決定する。 ジュニア連盟Cクラス採点規則を適用する。 ②花丸ルール適用(*)
円馬2	①旋回の回数を競う。試技は最大2回 *但し、5回以下の者に対してのみ。 ②2回試技を行った者は2回目を有効とする。		

(\*)花丸ルール/E得点賞

・A/BクラスE得点8.5以上の演技に対して花丸を与える。

(Bクラス跳馬は最終得点が9.3以上とする。

・Cクラスは新しい規定演技の花丸ルールを適用する。

・E得点賞;各E審判員が算出した上位3位までの得点を  
獲得した選手に与える。

Bクラス跳馬は規定のため除く。

## 6. 器具基準 添付資料参照のこと。

## 7. 着地マットの使用について 添付資料参照のこと。

## 8. 2015全日本ジュニア体操競技選手権大会(決勝大会)の出場資格について

出場資格と競技内容			
区分	男子		女子
Aクラス	①東西上位各30名 ②中体連採用規則に準ずる自由演技6種目 * 禁止技は高等学校適用規則に準ずる。 ③花丸ルール適用	Aクラス	①東西上位各30名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
Bクラス	①東西上位各30名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用	Bクラス	①東西上位各15名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
	<del>①東西上位各30名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用</del>	Cクラス	①東西上位各15名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
その他	※全日本ジュニア体操競技選手権大会の出場資格を取得した選手の該当クラブは、主催者が指定した時刻までにエントリーを完了しなければならない。 辞退した場合は次点の選手が繰り上がる。		

## 9. 表彰について

- ・すべてのクラス/個人総合・種目別ともに1～3位にメダルと賞状、4～6位に賞状が与えられる。
- ・(男子)円馬大会1/1～3位にメダルと賞状、4～6位に賞状が与えられる。
- ・(男子)円馬大会2/出場者のうち100回以上の選手に認定書が与えられる。
- ・(女子)E得点賞/E得点の上位1位～3位の得点を獲得した選手に賞状が与えられる。(A・Bクラス)

## 10. 参加料について

- ・A・B・Cクラス /1名につき ￥10,000
- ・円馬大会 /1名につき ￥3,000 (Bクラスに出場する選手は無料)

## 11. 申込締切について

- ①参加申込書に必要事項を記入の上、参加料を添えて**6月 日( )**までに必着のこと。
  - ・文書による申し込みとすること。(TELやFAXによる受付はしない。)
  - ・参加料は、下記口座に所属名で振り込んでください。

## 12. 申込先

## 13. 抽選関係

## 14. その他

- ①参加料はその理由の如何を問わず返金しない。
- ②大会期間中に発生した傷害については、その責任をスポーツ傷害保険の範囲内とする。
- ③参加申込書が不足した場合は各自コピーして補充すること。
- ④クラブ旗は各クラブとも1枚のみ掲揚できる。
- ⑤アリーナに入る監督、コーチは必ずクラブのユニフォームを着用のこと。
- ⑥参加選手のゼッケンはリーダー会議の際に本部から手渡される。
- ⑦参加者数の増減により日程に多少の変更が生じる場合がありますのでご了承ください。

## [個人情報保護について]

本大会にて収集する個人情報は、本法人の個人情報保護宣言を遵守します。

収集した個人情報は、本大会の運営に必要な参加者の確認と参加クラブとの連絡、大会プログラム(選手名・クラブ名・学年・クラブ連絡先)及び本法人ホームページ(大会結果)に使用し、それ以外の目的には使用しません。

## [大会期間中の肖像権について]

大会期間中に撮影された写真は、一般社団法人 全日本ジュニア体操クラブ連盟並びに開催地実行委員会が作成する報告書、広報誌、ホームページ等に掲載されることがあります。

# 2015東日本ジュニア体操競技選手権大会要項(案)

主催 一般社団法人 全日本ジュニア体操クラブ連盟  
 共催  
 主管 栃木県体操協会  
 後援 公益財団法人 日本体操協会・

協賛

## 1. 期 日

平成27年 7月28日(火)セッティング 本会場練習 リーダー会議  
 29日(水)審判会議 開始式 男子Bクラス競技(1日目)女子C/Bクラス  
 30日(木)男子Bクラス競技(2日目)女子C/Bクラス 男子円馬決勝大会 C/Bクラス表彰式  
 31日(金)男女Aクラス競技(1日目)  
 8月 1日(土)男女Aクラス競技(2日目) Aクラス表彰式 閉会式  
**※女子C/Bクラスの参加人数によって日程が変更することがあります。**

2. 大会会場 〒320-0057 栃木県宇都宮市中戸祭1丁目6-3  
 栃木県体育館 TEL 028-622-4201

3. 練習会場 なし

## 4. 参加資格

区 分	男 子		女 子
年会費	平成27年度の年会費を完納したクラブ		
登 録	当連盟に27年度の登録を済ませた者		
Aクラス	①小学校5年～中学校3年まで ②1団体最大6名	Aクラス	①小学校5年～中学校3年まで ②1団体最大6名
Bクラス	①小学校1年～小学校6年まで ②1団体最大6名	Bクラス	①小学校3年～小学校6年まで ②B・Cクラスで合計6名
円 馬	①小学校6年生以下の男子(Bクラスと兼ねても 単独でも出場可) * Aクラス出場者は除く。	Cクラス	①小学校1年～小学校6年まで ②B・Cクラスで合計6名
その他	①A・B・Cクラスに参加する者は、前年度迄に全日本ジュニア体操競技選手権大会(選手権の部)に出場した者を除く。 ②保護者または医師の承諾を得ること。		

## 5. 競技方法

※すべてに於いて「FIG版競技規則」に準ずる

区 分	男 子		女 子
Aクラス	①男子ジュニア規定演技[レベル1] ②花丸ルール適用	Aクラス	①ジュニア連盟女子Aクラス採点規則 (2013年版変更規則Ⅱを適用) 個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*) E得点賞対象
Bクラス	①男子ジュニア規定演技[レベル3] ②あん馬は「あん馬1」を採用 ③花丸ルール適用	Bクラス	①ジュニア連盟女子Bクラス採点規則 (2013年版変更規則Ⅱ、一部変更して適用) 個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*) E得点賞対象
円 馬 1	①旋回20回(閉脚10回+開脚10回)の大きさ、 美しさの質で順位を決定する。	Cクラス	①ジュニア連盟女子Cクラス規定演技を 採用し、個人総合・種目別を決定する。 ジュニア連盟Cクラス採点規則を適用する。 ②花丸ルール適用(*)
円 馬 2	①旋回の回数を競う。試技は最大2回 * 但し、5回以下の者に対してのみ。 ②2回試技を行った者は2回目を有効とする。		

(\*)花丸ルール/E得点賞

・A/BクラスE得点8.5以上の演技に対して花丸を与える。

(Bクラス跳馬は最終得点が9.3以上とする。)

・Cクラスは新しい規定演技の花丸ルールを適用する。

・E得点賞;各E審判員が算出した上位3位までの得点を  
獲得した選手に与える。

Bクラス跳馬は規定のため除く。

6. 器具基準 添付資料参照のこと。

7. 着地マットの使用について 添付資料参照のこと。

## 8. 2015全日本ジュニア体操競技選手権大会(決勝大会)の出場資格について

出場資格と競技内容			
区分	男子		女子
Aクラス	①東西上位各30名 ②中体連採用規則に準ずる自由演技6種目 * 禁止技は高等学校適用規則に準ずる。 ③花丸ルール適用	Aクラス	①東西上位各30名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
Bクラス	①東西上位各30名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用	Bクラス	①東西上位各15名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
		Cクラス	①東西上位各15名 ②ルールについては東西大会と同じ。 ③花丸ルール適用
その他	※全日本ジュニア体操競技選手権大会の出場資格を取得した選手の該当クラブは、主催者が指定した時刻までにエントリーを完了しなければならない。 辞退した場合は次点の選手が繰り上がる。		

9. 表彰・すべてのクラス/個人総合・種目別ともに1～3位にメダルと賞状、4～6位に賞状が与えられる。
- ・(男子)円馬大会1/1～3位にメダルと賞状、4～6位に賞状が与えられる。
  - ・(男子)円馬大会2/出場者のうち100回以上の選手に認定書が与えられる。
  - ・(女子)E得点賞/E得点の上位1位～3位の得点を獲得した選手に賞状が与えられる。(A・Bクラス)

10. 参加・A・B・Cクラス /1名につき ￥10,000  
・円馬大会 /1名につき ￥3,000 (Bクラスに出場する選手は無料)

11. 申込①参加申込書に必要事項を記入の上、参加料を添えて**6月 日( )**までに必着のこと。
- ・文書による申し込みとすること。(TELやFAXによる受付はしない。)
  - ・参加料は、下記口座に所属名で振り込んでください。

## 12. 申込先

## 13. 抽選関係

## 14. その他

- ①参加料はその理由の如何を問わず返金しない。
- ②大会期間中に発生した傷害については、その責任をスポーツ傷害保険の範囲内とする。
- ③参加申込書が不足した場合は各自コピーして補充すること。
- ④クラブ旗は各クラブとも1枚のみ掲揚できる。
- ⑤アリーナに入る監督、コーチは必ずクラブのユニフォームを着用のこと。
- ⑥参加選手のゼッケンはリーダー会議の際に本部から手渡される。
- ⑦参加者数の増減により日程に多少の変更が生じる場合があるのでご了承ください。

## [個人情報保護について]

本大会にて収集する個人情報は、本法人の個人情報保護宣言を遵守します。

収集した個人情報は、本大会の運営に必要な参加者の確認と参加クラブとの連絡、大会プログラム(選手名・クラブ名・学年・クラブ連絡先)及び本法人ホームページ(大会結果)に使用し、それ以外の目的には使用しません。

## [大会期間中の肖像権について]

大会期間中に撮影された写真は、一般社団法人 全日本ジュニア体操クラブ連盟並びに開催地実行委員会が作成する報告書、広報誌、ホームページ等に掲載されることがあります。

# 2015全日本ジュニア体操競技選手権大会 —東西決勝大会要項(案)—

主催 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟 (公財)日本体操協会  
 主管 神奈川県体操協会 横浜市体操協会  
 後援 文部科学省 (公財)日本オリンピック委員会 横浜市 (公財)横浜市体育協会  
 (一財)上月財団  
 協賛 (株)ササキスポーツ セノー(株) コカ・コーラ イースト ジャパン(株)  
 リコージャパン(株)

1. 期 日 平成27年8月13日(木) 決勝大会リーダー会議及び審判会議 決勝大会開会式  
 女子C/Bクラス、男子Bクラス決勝大会  
 14日(金) 男女Aクラス決勝大会 決勝大会表彰式

2. 大会会場 〒231-0032 神奈川県横浜市中区不老町2-7 横浜文化体育館 ☎045-641-5741

## 3. 参加資格

区分	男子	女子
年会費	平成27年度の年会費を完納したクラブ	
登録	当連盟に27年度の登録を済ませた者	
Aクラス決勝	2015東西ジュニア出場者の上位各30名	2015東西ジュニア出場者の上位各30名
Bクラス決勝	2015東西ジュニア出場者の上位各30名	2015東西ジュニア出場者の上位各15名
Cクラス決勝		2015東西ジュニア出場者の上位各15名

## 4. 適用規則及び競技方法

※すべてに於いて「FIG競技規則」に準ずる

区分	男子	女子
Aクラス決勝	①自由演技(中体連適用規則に準ずる)を適用し、個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用 ③禁止技は高等学校適用規則に準ずる。	①ジュニア連盟女子Aクラス採点規則(2013年版変更規則Ⅱを適用)個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*)
Bクラス決勝	①男子ジュニア規定演技[レベル3]を採用し、個人総合・種目別を決定する。 ②あん馬は「あん馬2」を採用 ③花丸ルール適用	①ジュニア連盟女子Bクラス採点規則(2013年版変更規則Ⅱ、一部変更して適用)個人総合・種目別を決定する。 ②花丸ルール適用(*)
Cクラス決勝		①ジュニア連盟女子Cクラス規定演技を採用し、個人総合・種目別を決定する。 ジュニア連盟Cクラス採点規則を適用する。 ②花丸ルール適用

(\*)花丸ルール

◆A/BクラスE得点8.5以上の演技に対して花丸を与える。

(Bクラス跳馬は最終得点が9.3以上とする。)

◆Cクラスは新しい規定演技の花丸ルールを適用する。

5. 器具基準 別添資料参照のこと。

6. 着地マットの使用について 別添資料参照のこと。

7. 表彰 個人総合種目別とも 1～3位/メダル・賞状及び副賞  
 4～6位/賞状及び副賞

(※女子E得点賞は東西大会のみとなります。)

8. 申込締切 東西ジュニア選手権大会終了後、出場資格者名簿が大会会場にて発表され、参加団体に参加申込書が配布される。  
 参加団体の責任者は申込書に必要事項を明記し、参加料を添えて同会場にて申し込むこと。以後は受け付けない。

9. 抽選 平成27年7月1日(水)18:30より行い演技順を決定する。

選手権大会の試技順一覧は抽選結果を入力、確認後参加クラブに郵送される。

◆演技順について

【男子A/Bクラス】東西ジュニア予選大会の1位～15位はⅡ班、16位～30位はⅠ班とする。

【女子Aクラス】東西ジュニア予選大会の1位～15位はⅡ班、16位～30位はⅠ班とする。

【女子C/Bクラス】東西ジュニア予選大会(各15名)合計30名、各々のクラスでⅠ班とする。

※演技順は抽選される。抽選結果は、東西ジュニア選手権大会終了後、各決勝大会エントリーの際に参加申込書とともに配布する。

10. 参加料 1名につき 10,000円

11. その他 (1)参加料はその理由の如何を問わず返金しない。  
 (2)大会期間中に発生した傷害については、その責任をスポーツ傷害保険の範囲内とする。  
 (3)参加選手のゼッケンはIDカードと共に受付にて配布される。

## 「個人情報保護について」

本大会にて収集する個人情報は、本法人の個人情報保護宣言を遵守します。

収集した個人情報は、本大会の運営に必要となる参加者の確認と参加クラブとの連絡、大会プログラム(選手名・クラブ名・学年・クラブ連絡先)及び本法人ホームページ(大会結果)に使用し、それ以外の目的には使用しません。

## 「大会写真の取り扱いについて」

大会期間中に撮影された写真は、当連盟ホームページ、大会ポスター、プログラム及び大会報告書、広報誌等に掲載されることがあります。ご了承ください。

# JOCジュニアオリンピックカップ 2015全日本ジュニア体操競技選手権大会 兼国際ジュニア代表決定競技会、東西決勝大会要項(案)

主催 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟 (公財)日本体操協会  
 主管 神奈川県体操協会 横浜市体操協会  
 後援 文部科学省 (公財)日本オリンピック委員会 横浜市 (公財)横浜市体育協会  
 (一財)上月財団  
 協賛 (株)ササキスポーツ セノー(株) コカ・コーラ イーストジャパン(株)  
 リコージャパン(株)

1. 期 日 平成27年8月14日(金) 2部リーダー会議及び審判会議 開始式  
 2部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)1日目  
 15日(土) 2部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)2日目  
 16日(日) 2部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)3日目  
 2部表彰式 1部リーダー会議及び審判会議  
 1部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)1日目  
 17日(月) 1部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)2日目  
 18日(火) 1部競技(団体総合兼個人総合及び種目別)3日目  
 1部表彰式 閉会式

2. 大会会場 〒231-0032 神奈川県横浜市中区不老町2-7 横浜文化体育館 ☎045-641-5741

### 3. 参加資格

区分	男子	女子
年会費	平成27年度の年会費を完納したクラブ	
登録	当連盟に27年度の登録を済ませた者	
選手権1部	<p>①中学2年生から高校3年生 (平成9年4月2日~平成14年4月1日までの間に生まれた者)                  ②前年度上位4チーム、チーム内選手を含む個人24位シードは最終日、また、前年度上位5~8位チームは最終日前日、最終班とする。                  ③1クラブ最大出場6名(チーム4名/ベスト3+個2)                  ④補欠は最大2名                  ※個人はチーム補欠と兼ねても良い。                  ※正選手6名(チーム4名/個人2名)、補欠2名をエントリーした場合、補欠はあくまでも補欠であり、チーム或いは個人との入れ替えのみできる。                  ※チーム、並びに個人選手の最終決定は、前日公式練習終了後10分以内に書面にて事務局に提出すること。                  変更がない場合は提出不要、したがって時間内に提出がない場合の変更は認めない。                  ⑤個人出場の際は1クラブにつき最大2名</p>	<p>①小学6年生から高校3年生 (平成9年4月2日~平成16年4月1日までの間に生まれた者)                  ※小学6年生の出場選手については、全日本選手権大会の団体及び個人総合出場年齢下限が、平成15年12月31日生ままでとなっているため、早生まれの選手は対象外となる。したがって成績が通過圏内であっても予選通過にはならず、全日本ジュニア大会の成績のみとなる。                  ②前年度上位4チームは最終日の最終班、また、前年度上位5~8位チームは最終日朝I班とする。個人シード選手(昨年度まで優秀選手)12名は、上位6名は最終班、残りの選手については朝I班とする。シード選手の数が12名に満たない時は、フリー抽選とする。                  ③1クラブ最大出場6名(チーム6名/ベスト5)                  ④チーム補欠は最大2名(チームとの入れ替えのみ可、ただし、個人シード選手(優秀選手)はこの限りではない。)                  ⑤本連盟推薦の個人シード選手(優秀選手)12名(個人出場可)                  ⑥個人出場の際は1クラブにつき最大4名                  ⑦全日本選手権予選も兼ねているため、CR 2.3(跳馬を除く3種目)以上獲得できる者                  ※チーム又は個人いずれかの参加が許される。</p>
選手権2部	<p>①中学1年生から高校3年生 (平成9年4月2日~平成15年4月1日までの間に生まれた者)                  ②1クラブ最大出場4名(チーム4/ベスト3)                  ③チーム補欠は最大2名(チームとの入れ替えのみ可)                  ④個人出場の際は1クラブにつき最大2名                  ⑤選手権1部との重複出場はできない。                  ⑥前年度1部の出場者であっても出場できる。                  ※チーム又は個人いずれかの参加が許される。</p>	<p>①中学3年生から高校3年生 (平成9年4月2日~平成13年4月1日までの間に生まれた者)                  ②1クラブ最大出場5名(チーム5/ベスト4)                  ③チーム補欠は最大2名(チームとの入れ替えのみ可)                  ④個人出場の際は1クラブにつき最大3名                  ⑤選手権1部との重複出場はできない。                  ⑥前年度1部の出場者であっても出場できる。                  ※チーム又は個人いずれかの参加が許される。</p>
参加枠	1クラブにつき1・2部の大会で最大10名の参加が認められる。	1クラブにつき1・2部の大会で最大6名の参加が認められる。
その他	<p>①医師または保護者の承諾を得ること。                  ②団体及び個人選手の資格はその範囲とする。                  ③本年度東西ジュニア選手権に出場した者は出場できない。</p>	

### 4. 適用規則及び競技方法

※すべてに於いて「FIG競技規則」を適用する

区分	男子	女子
選手権1部	2013年版採点規則を適用する。(最新号を準用) (団体総合兼個人総合及び種目別)	2013年版採点規則を適用する。(最新号を準用)(団体総合兼個人総合及び種目別:競技I) (団体総合兼個人総合及び種目別)
選手権2部	高体連採用の採点規則(一部変更ルール)を適用する。(団体総合兼個人総合及び種目別) (10技→8技)	2013年版採点変更規則IIを適用する。(団体総合兼個人総合及び種目別)

### 5. 2015国際ジュニア体操競技大会の代表選手について

区分	男子	女子
対象年齢	14~17才(1998年1月1日~2001年12月31日生) ※シニアの国際大会に参加していない者に限る	13~15才(2000年1月1日~2002年12月31日生)
代表枠	選手 男女選手権1部における個人総合上位各4名(表彰対象者は上位2名とする) コーチ 代表選手が所属するクラブのコーチ各1名	
競技規則	「個人総合・種目別ともにFIGジュニアルール適用」 *跳馬種目別に出場する選手は初日から2本の跳躍が必要となる。	

### 6. 全日本選手権への出場資格について(別添資料参照)

(公財)日本体操協会からの通達により男女とも次の枠内で全日本選手権への資格が与えられる。

7. 器具基準 別添資料参照のこと。

8. 表彰 団体総合/個人総合/種目別 各々1~3位/メダル・賞状及び副賞,4~6位/賞状及び副賞

9. 申込締切 申込書(統括表と個人申込書の両方)に必要な事項を記入し、参加料を添えて6月19日(金)必着で現金書留にて送付のこと。 ※締切日以後は受付けない。

(宛先)〒103-0027 東京都中央区日本橋1-16-6 久富ビル4階  
(一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟

10. 抽選 平成27年7月1日(水)18:30より抽選会を行い演技順を決定する。

\*抽選会に参加を希望するクラブは申込締切日までに事務局へ申し出ること。

### 11. 参加料

区分	男子	女子
団体出場	1部 1団体 40,000円	1部 1団体 60,000円
	2部 1団体 40,000円	2部 1団体 50,000円
個人出場	1名あたり10,000円	

### 12. 帯同審判

- (1)選手権(1部・2部)団体出場クラブは1種の帯同審判を派遣すること。ただし、女子競技は女性に限る。  
 ※帯同審判員は必ず(公財)日本体操協会Web登録を完了している者に限る。  
 (2)帯同審判を派遣できないクラブは審判委託費(1部・2部/70,000円)を納入のこと。  
 (3)【女子】帯同審判員が多い場合、D2審判員は選出し、それ以外はアシスタントを含むフリー抽選とする。

### 13. その他

- (1)参加料はその理由の如何を問わず返金しない。  
 (2)チームには最大2名までのコーチをつけることができる。(男性・女性のいずれでも可)  
 (3)大会期間中に発生した傷害についてはその責任をスポーツ傷害保険の範囲内とする。  
 (4)宿泊については宿泊要項にて希望者のみ申し込むこと。(先着順)  
 (5)申込書が不足の場合は各自コピーをして使用すること。  
 (6)参加選手のゼッケンは事前に送付される。  
 (7)参加者数の増減により日程に変更が生じる場合がある。

### 「個人情報保護について」

本大会にて収集する個人情報は、本法人の個人情報保護宣言を遵守します。

収集した個人情報は、本大会の運営に必要な参加者の確認と参加クラブとの連絡、大会プログラム(選手名・クラブ名・学年・クラブ連絡先)及び本法人ホームページ(大会結果)に使用し、それ以外の目的には使用しません。

### 「大会写真の取り扱いについて」

大会期間中に撮影された写真は、当連盟ホームページ、大会ポスター、プログラム及び大会報告書、広報誌等に掲載されることがあります。ご了承ください。

# 2015 International Junior Gymnastics Competition 2015国際ジュニア体操競技大会実施要項(案)

1. 大会名称 2015国際ジュニア体操競技大会
2. 大会期日 平成27年9月22日(火/祝)、23日(水/祝) 2日間
3. 日 程 平成27年9月20日(日) 選手団入国、セッティング、公式練習  
21日(月祝) 公式練習、ウェルカムパーティー  
22日(火祝) 個人総合選手権大会  
23日(水祝) 種目別選手権大会  
24日(木) 選手団移動日、観光  
25日(金) 選手団帰国
4. 大会会場 横浜文化体育館(JR関内駅より徒歩2分)  
〒231-0032 横浜市中区不老町2-7 ☎ 045-641-5741
5. 主 催 (公財)日本体操協会 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟 朝日新聞社
6. 主 管 神奈川県体操協会 横浜市体操協会
7. 後 援 横浜市 (公財)横浜市体育協会 横浜商工会議所  
(一社)横浜青年会議所 朝日学生新聞社 神奈川新聞社  
日刊スポーツ新聞社 (一財)上月財団
8. 協 賛 セノー(株) (株)ササキスポーツ リコージャパン(株)
9. 参加国 オーストラリア・ブラジル・カナダ・中国・フランス・イギリス・ドイツ・香港・ニュージーランド  
(予定) ルーマニア・ロシア・シンガポール・ウクライナ・アメリカ・日本(15ヶ国予定)
10. 大会内容 (1)競技種目 男子6種目(ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒)  
女子4種目(跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか)  
(2)競技方法 個人総合、種目別ともにFIG採点規則を適用  
(3)採点規則 男女ともFIG採点規則2013年版ジュニアルール適用  
(4)参加年齢 男子／14～17才(1998年1月1日～2001年12月31日生)  
女子／13～15才(2000年1月1日～2002年12月31日生)
11. 入 場 料 大人(大学生以上) 前売り1日券 2,000円 当日1日券 2,500円  
小人(小・中・高) 前売り1日券 1,000円 当日1日券 1,500円

平成27年2月現在



## ～27年度 男子器械種目寸度表～

□選手権1部(中学2年～高校3年) □選手権2部(中学1年～高校3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm～1m16cm	10cm
つり輪 鉄棒	2m80cm	20cm
跳馬	1m35cm	20cm
平行棒	1m90cm 2m00cm	12cm 20cm

□Aクラス(小学5年～中学3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm	10cm
つり輪	2m65cm	20cm
跳馬	1m25cm	20cm
平行棒	1m85cm 1m95cm	12cm 20cm
鉄棒	2m75cm	20cm

□Bクラス(小学1年～小学6年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
あん馬	1m15cm <small>※身長の高い選手に対し、飛びつき台を別途用意する。</small>	10cm
つり輪	2m65cm	20cm
跳馬	1m10cm	20cm
平行棒	1m65cm 1m75cm	12cm 20cm
	<small>*一般認定器具で高さ165cm、両棒間の幅調節ができるものがあれば良い。(設置の際は業者に確認)</small>	
鉄棒	2m65cm	20cm

## ～27年度 女子器械種目寸度表～

□選手権1部(小学6年～高校3年) □選手権2部(中学3年～高校3年)

□Aクラス(小学5年～中学3年)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
跳馬	1m25cm	20cm
段違い	低棒 1m65cm	12cm
	高棒 2m45cm	
	バー間隔 最大 1m80cm	20cm
	低棒 1m70cm	
高棒 2m50cm		
	バー間隔 最大 1m80cm	
平均台	1m20cm	12cm
	1m25cm	20cm

(1)ゆかを除く3種目では最大10cm程度の着地マットを使用しなければならない。(本会場3枚、練習会場3枚)

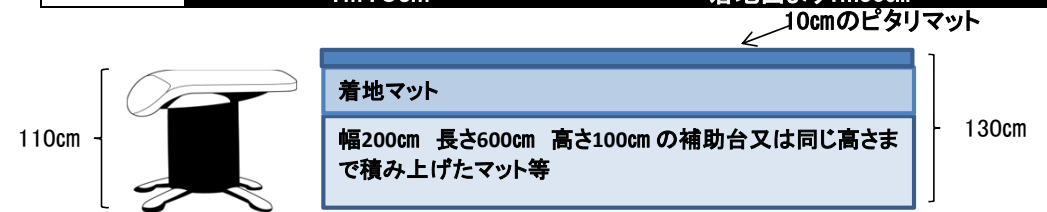
□Bクラス(小学3年～小学6年)(一部規定演技を含む自由演技)

□Cクラス(小学1年～小学6年)(IBクラス規定演技)

器械種目	床面からの高さ	マットの高さ
跳馬	1m10cm	20cm
段違い	低棒 1m65cm	12cm
	高棒 2m45cm	
	バー間隔 最大 1m80cm	20cm
	低棒 1m70cm	
高棒 2m50cm		
	バー間隔 最大 1m80cm	
平均台	1m20cm	12cm
	1m25cm	20cm

※Bクラス跳馬について

跳馬	床面からの高さ	着地マットについて
	1m10cm	着地面より1m30cm



設置案1 : 幅200cm 長さ600cm 高さ100cmの補助台もしくはそれに準じた台を設置し、その上に通常の跳馬用着地マット(200x600x20)を設置しその上にピタリマット(200x600x10)を設置する。

設置案2 : 着地マット(200x600x20)を2×5枚敷き100cmの高さの着地スペースを設営、その上に通常の着地マット、ピタリマット(200x600x10)を設置する。

設置案3 : 幅200cm 長さ600cm 高さ100cmのポディウムに準ずる台(セノーもしくは会場設営業者※各開催地手配)を設置し、その上に通常の跳馬用着地マットを設置し、その上にピタリマット(200x600x10)を設置する。

## 【跳馬】

- ・ウォーミングアップにおいて、各選手合計3回までの練習が認められる。
- ・助走は25m以内で行い、メジャーは、着地マットの先端を0mとする。

## 【段違い平行棒】

- ・足裏支持回転→足裏支持回転（屈身）（冊子P13）

## 【平均台】

- ・終末技はどちらの方向でも着地が認められる。（マットの移動可）
- ・開始技での、踏み切り板の使用を認める。
- ・演技の途中で脚の変更を行った場合、次の変更箇所までは規定された通りに演技しなければならない。
- ・前方倒立回転から片足着台し、左脚を曲げ伸ばし後もどす。（チックタック）  
→前方倒立回転から片足着台し、右脚を曲げ伸ばし後もどす。に訂正。（冊子P16）
- ・タイム減点はしない。

## 【ゆか】

- ・ジャンプシリーズ部分で、リープジャンプを反対脚で行った場合

※左足で着地後、浮き足の右足を後方へ出し、左へ1/4ひねりながら左足前5番ポジションで立つ。

- ・選手は、右足先行または左足先行の動きどちらかを選択して演技しなくてはならない。（ターンやジャンプ、アクロバットは指定された場所でのみ変えることができるが、その後、動きや方向は変えられない。）

[例]・右足先行の動きで始まり→要素終了後に左足先行の方向へ動くことは認められない。

## 減点項目の追加並びに変更について

### 【段違い平行棒・平均台・ゆか】において

#### ◆追加項目

要素変更 -0.5

- [例]・ほんてん倒立を試みたが、ともえになってしまった→ 要素変更 -0.5  
・ほんてん倒立を試みたが、倒立に入る前に落下してしまい、ほんてんをやり直さず演技を続けた場合→ 要素変更-0.5+大過失-0.5  
・ほんてんをやり直し成功した場合→ 大過失 -0.5

要素なし -1.0

### 【段違い平行棒】

#### ◆追加項目

- ・後方足裏支持回転（屈身） 膝が曲がる -0.1
- ・ほんてん倒立 終了時の倒立角度30° まで -0.3まで  
30° よりはずれる 要素変更

### 【平均台】

#### ◆変更

- ・脚交差前後開脚とび～シソソヌ  
リズムとテンポの欠如 -0.3まで → 連続性がない -0.3に変更(冊子P 1 8, No. 10 )
- ・1回ターン～1/2ターン  
リズムの欠如 -0.1 → 留まりがある -0.1に変更(冊子P 1 8, No. 12 )

#### ◆補足説明

☆芸術性に乏しい演技（減点対象項目）

- ・演技が美しい体線で行われない。
- ・重心の高い演技ができない。（不完全なトリ立ちなど）
- ・胸・肩・腕を含む、柔軟性の質に欠ける。

### 【ゆか】

#### ◆補足説明

☆芸術性に乏しい演技（減点対象項目）

- ・音楽にあっていない
- ・演技が美しい体線で行われない。
- ・体の使い方が不十分である（演技全体を通して雄大性に欠ける）（大きさが無い）

平成 27 年 2 月 10 日  
(公財) 日本体操協会  
審判委員会委員長  
竹内 輝明

### 審判委員会からのお知らせ

先般、開催された平成 26 年度全国代表者連絡会議にてご連絡いたしました本協会 1 種公認審判員の 카테고리制の導入及び本協会主催全日本選手権（世界大会代表選手選考競技会）に出場する監督・コーチの 1 種審判講習会受講に関するお知らせをいたします。

該当する監督、コーチ、審判員の皆様におかれましては、各都道府県協会（連盟）で開催される講習会（別紙参照）を受講されることをお願いいたします。

#### 1 1 種審判 카테고리制導入について

全国の審判員育成を図りより精度の高い審判業務を遂行するため、2017 年（平成 29 年度）より体操男子・女子、新体操女子において 1 種審判 카테고리制を導入します（D 審判資格からの移行）。トランポリンについては、審判の役割を調整しながら検討します。

카테고リー認定試験は、2016 年（平成 28 年度）リオデジャネイロオリンピック後の規則改訂にあたる 1 種審判義務研修会で実施します。카테고リー試験の結果により 1 種審判資格の降格や失効はありません。試験は、毎年実施しより上位の 카테고리が取得できるようにします。1 種審判登録は、現行通りで特に変更はありません。

#### 카테고リー制導入年次推移

年 度	導入までの手順
2014 年 平成 26 年度	各種別 D 審判試験実施
2015 年 平成 27 年度	日本体操協会主催大会 D 審判に D 審判資格を導入 (体操男子・女子、新体操女子)
2016 年 平成 28 年度	1 種審判義務研修会で 카테고리認定試験を実施（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ） 카테고リーは 2017 年～2020 年まで有効
2017 年 平成 29 年度	카테고リーによる審判編成 카테고リー認定試験実施

#### 審判 카테고리と審判業務（2017 年より）

審判業務	카테고リー	種別
全日本選手権 世界大会代表選考会 D 審判	Ⅰ	1 種
全国大会（インターハイ 国体 インカレ ジュニア等） D 審判	Ⅰ Ⅱ	1 種
全日本選手権 世界大会代表選考会 全国大会 E 審判	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	1 種

## 2 全日本選手権（世界大会代表選手選考会）に出場する監督・コーチの 1種審判研修会・講習会受講について

採点規則では、監督、コーチの義務として、採点規則や競技規則を熟知していることが定められています。そのためには、監督、コーチの皆様が、審判講習会や研修会を受講して、最新の情報を理解されることが大切になります。国内では、1種審判義務研修会において大陸間講習会からの情報が最初に伝達されます。特に採点規則改訂期に、いち早く新情報を入手し共通理解を深めることは選手育成において極めて重要になります。

体操男子・女子、新体操女子、トランポリンにおいて、2017年（平成29年度）からの全日本選手権、世界大会代表選手選考会でアリーナに入る監督、コーチは平成28年度に開催される1種審判義務研修会または1種審判認定講習会の受講が原則として必要になります。そのため、現在審判資格のない方は3種、2種審判資格を取得して、1種審判義務研修会または1種審判認定講習会を受講する準備をお願いいたします。特別な場合に限り2種、3種資格でも1種審判義務研修会の受講を認め受講証を発行します。将来的には監督、コーチの皆様も1種審判資格を取得して、審判と共に情報の共有を図りながら選手強化に活用していただくようお願い申し上げます。

### 導入までの年次推移

年 度	導入までの手順
2015年 平成27年度	審判資格取得（2種、3種）
2016年 平成28年度	1種審判義務研修会または1種認定講習会受講（受講証発行） 特例として2種、3種資格でも1種審判義務研修会の受講を認めます
2017年 平成29年度	全日本選手権、世界大会代表選手選考会の監督、コーチは原則的に1種審判義務研修会または1種認定講習会の受講証が必要となります

平成 27 年 2 月 16 日

## 女子体操競技情報 22 号

(公財) 日 本 体 操 協 会  
リオデジャネイロオリンピック強化委員会  
女子体操競技強化本部  
審判委員会女子体操競技審判本部

日本体操協会では、リオデジャネイロオリンピック強化委員会女子体操競技強化本部による 2015 年強化指針と審判委員会女子体操競技審判本部による 2015 年採点指針、国内内規および FIG からの採点規則の変更、修正等をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

## 2015年 強化指針

リオデジャネイロオリンピック強化委員会  
女子体操競技強化本部長  
塚原 千恵子

### 全体として

2015年10月に開催される第46回グラスゴー世界選手権大会はリオデジャネイロオリンピックの団体予選大会であり、8位入賞を果たし団体出場権を確保することが第一優先課題となる。

昨年の南寧世界選手権大会で団体予選において強豪国のルーマニアを上回り、目標点220点を超える221.360点を獲得した。ゆかの大過失一つで抑えたチームの安定感は評価したい。しかし決勝の平均台では、一つの大過失と得点の伸び悩みが目立ち、165.422点で目標の5位には及ばず8位となった。個人総合は寺本選手が平均台で落下が影響し18位、笹田選手は大きなミスはなかったものの20位であった。種目別では唯一、寺本選手が平均台に残り、ミスのない演技だったが4位に終わった。それぞれの選手が実力を発揮した大会であったが、リオデジャネイロオリンピックに向けて多くの課題を残した大会となった。

中国に6.693点の大差をつけて優勝した米国の圧倒的な強さは、技術とパワー、そして安定感にあふれていた。今後の女子体操の目標となるだろう。

現状では米国・中国・ロシアの強豪国には及ばないものの、グラスゴー世界選手権大会ではライバル国のイタリア・ルーマニア・オーストラリア・イギリス・カナダ・ブラジルとの競い合いが予想される。オリンピック前年の世界選手権大会は、各ライバル国が一気に競技力向上を図ってくることが予想されるので現状に甘えている時間はない。日本は早急な競技力向上が求められる。

グラスゴー世界選手権において8位入賞を確実なものにするためにはまず、チーム全体のDスコアのアップが急務である。日本女子チームの演技は、総体的に難度の低さが目立つ。各種目のDスコアアップにより、14点台に乗せられる演技がチームに2人は必要であろう。さらにE難度・F難度への挑戦に、チームをあげて臨まなければならない。

しかし、Eスコアのレベルアップも忘れてはならない。チーム8.5点以上のE得点を目標としたい。美しさは体操競技の原点であり正確な基本技術、芸術的な表現力は女子体操の基本であり、日頃の基礎練習の強化は怠ってはならない。個人・種目別の強化にも通じる課題であり、現状の日本女子体操に見逃されているように思う。国際大会における審判員は、この点に厳しい評価をしている。

その国の競技レベルは、その国の審判レベルと同等であるといわれている。採点結果は、選手の練習目標となり強化指針となる。つまり、審判はすべての強化の指針となるのである。審判本部との連携を図り、目標に添った正しい指針のもとに目標達成のための強化を図っていきたい。

## 跳馬

- ・Dスコア5.8点以上の跳躍
- ・着手時の肘の曲りや脚の乱れなどの姿勢欠点のない演技
- ・高さや距離を伴うダイナミックな演技
- ・高い姿勢での着地と安定性

## 段違い平行棒

- ・基本技術の姿勢不良（身体の反り、肘の緩み、脚の乱れ）の修正
- ・倒立局面の角度（10度以内）の徹底
- ・空中局面を伴う技の高さ、回転の不足、空中姿勢
- ・組み合わせ点でDスコアアップの工夫
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技はD難度以上

## 平均台

- ・ふらつきのない安定した演技
- ・つま先、ひざが伸びた脚のラインと体線の美しさ
- ・芸術性豊かな美しい姿勢
- ・跳躍技の高さ、開脚度（180度以上）の正確な実施
- ・D難度以上のターンの正確な実施
- ・アクロバットの高さや姿勢、安定した実施
- ・高い姿勢での安定した着地
- ・終末技はD難度以上

## ゆか

- ・アクロバット系の技は、D難度以上の技と組み合わせの工夫
- ・アクロバットの高さ・スピード・姿勢欠点のない演技
- ・高い姿勢での両脚をそろえた安定性のある着地
- ・ダンス系は規定された姿勢や正確な実施
- ・顔の表情も含めた芸術的な動きによる演技
- ・D難度以上のダンス系の工夫
- ・終末技はD難度以上



# 2015年 採点指針

審判委員会女子体操競技審判本部

## 全体として

2014年南寧世界選手権において、日本選手は競技会全体でミスをもっと抑え、安定感のある確実な演技と欠点の少ない技の実施で、団体決勝、個人決勝、種目別決勝に進出を果たし、日本選手の競技力の強さを見せることができた大会となった。しかし、今大会予選通過を逃した国においても高いDスコアを有し、予選通過の力を十分備えている国は多く、北京オリンピック以降、団体決勝に進出し続けている日本チームであるが、来年の世界選手権で団体8位以内に入りリオデジャネイロオリンピックの切符をつかむことは、現段階で確実なものではなく安心できる状況ではないと痛感した。今後、日本全体としてDスコアを高めること、欠点のない質の高い演技を実施することはどちらも重要な課題となる。

ただし、Dスコアの向上を目指し、高い難度の技に挑戦していくことは必要不可欠であるとはいえ、高い難度の技に挑戦するが故に日本選手の持ち味である「美しい体線での演技」を失ってしまえば質の高い演技には相反する結果を生むこととなる。これまで重要な指針としてきた「常に美しい体線での演技」を追求していくことは、日本選手の一番の持ち味をより際立たせ、より質の高い演技を求めるものであり、これまで同様採点における最重要項目としていきたい。姿勢欠点のある実施や技術に反した欠点を伴う実施に対しては、採点項目に則り明確な減点をし、欠点のない美しい姿勢での演技を高く評価したい。

さらに、どの種目においても着地および着地姿勢に対しては実施によって大きな減点が伴うため、高い着地姿勢による安定した着地が望まれる。特にゆかにおいては、必然的に着地に対する減点のチャンスが多くなるため、アクロバット系の技、ダンス系の技、共に正確で熟練された実施を望みたい。採点においては、一つ一つの技の理想像、目標値を常に念頭に置き、理想とされる実施であるかそうでないかをよく見極め減点をしていきたい。

また、日本選手は、世界の上位選手と比べると力強さや技の大きさ、ダイナミックさに欠けている点や、芸術性についても表情が乏しく感じられ、内面からわき出るような表現力を審判員に印象づけることができなかつたように思う。ダイナミックな技の実施とともに、表情が豊かで、見ている人を魅了するような表現を目指して欲しい。

以上のようなことから、これらのことが満たされた演技と、そうでない演技に明確な差を付けるために国内内規を適用する。

## 【国内内規】

### ①2015 年度国内すべての大会に適用

採点規則 第 8 条 一般欠点と減点表

－演技全体を通してスピードと迫力に欠ける － 0.10 / 0.30

### ②2015 年度以下に示す大会に適用

全日本体操競技選手権大会（個人総合選手権、種目別選手権、団体選手権）  
NHK 杯  
全日本ジュニア体操競技選手権大会（1 部）  
全日本学生体操競技選手権大会  
全日本シニア体操競技選手権大会（1 部）

第 11 条 段違い平行棒、第 12 条 平均台、第 13 条 ゆか

－高得点を得るための前向きな演技構成

- ・終末技 C 難度以下 － 0.10
- D 難度以上 ＋ 0.10

・演技全体で組み合わせ点を獲得できる組み合わせを実施 ＋ 0.10 / 0.30

補足：演技全体で組み合わせ点を獲得できる組み合わせを複数実施した場合に＋0.30  
加点とする。大過失が伴っていてもその構成に対して加点が与えられる。

## 各種目

### 跳馬

#### 【指針】

- －高さ・距離を伴うスピード・迫力のある実施。
- －着地の体勢が高く、安定した着地。
- －どの局面においても欠点のない美しい姿勢での実施。

#### 【採点上の留意点】

- －スピード・迫力に欠ける跳躍については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける －0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- －それぞれの局面において姿勢欠点が見られる演技については、第 10 条「種目特有な実施減点」の減点項目に併せて第 8 条一般欠点「一技と跳躍（跳馬）での姿勢と脚の位置」の減点項目を有効に使い、欠点のある演技とそうでない演技との差を明確につける。

## 段違い平行棒

### 【指針】

- －肘の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施。
- －演技全体を通してスピードや迫力のある実施。
- －空中局面を伴う技の大きさと、ひねりを伴う技の正確な実施。
- －多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- －終末技の高さある安定した着地。

### 【採点上の留意点】

- －スピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける ー0.10/0.30」を有効に使うって明確に差をつける。
- －け上がり、振り上げなどの基本技術の姿勢においても注視し、各技の欠点については、その都度個々に減点する。
- －上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目と第11条段違い平行棒「種目特有な実施減点」を有効に使う。

## 平均台

### 【指針】

- －技の実施だけでなく、立ち姿勢や動きも含め、常に美しい姿勢での演技。
- －アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施。
- －リズムとテンポの変化があり、メリハリのある多様な動きと手先足先までコントロールされた表現豊かな演技。
- －多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- －終末技の高さある安定した着地。

### 【採点上の留意点】

- －スピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける ー0.10/0.30」を有効に使うって明確に差をつける。
- －上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目や第12条平均台「芸術性と振り付けの減点」「種目特有な実施減点」を有効に使う。

## ゆか

### 【指針】

- －技の実施だけでなく、立ち姿勢や動きも含め、常に美しい姿勢での演技。
- －アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施。
- －スピードや迫力を感じさせる雄大な実施と演技面を大きく使用した躍動感のある演技。
- －選手の個性にあった振り付けと音楽の調和、顔の表情も含め全身を使った表情豊かで魅力的な演技。
- －多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成。
- －高さのある安定した着地。

### 【採点上の留意点】

- ースピード・迫力に欠ける演技については、国内内規に設けた「演技全体を通してスピード・迫力に欠ける -0.10/0.30」を有効に使って明確に差をつける。
- ー上記指針の内容に対し、問題のある演技に対しては、第8条の一般欠点と減点表の減点項目と第13条ゆか「芸術性と振り付けの減点」「音楽性」「種目特有な実施減点」を有効に使う。

### 【採点規則の修正の通知について】

#### ①平成25年4月25日付「FIG 通達による採点規則修正版の通知」について

- ・「6.採点規則集修正版による国内対応」については、今年度以降は適用せず、採点規則通りといたします。従って、平均台の着地用補助マットを移動することは認められません。(移動した場合は、規則通りの減点となります)

補足：開始技と終末技を同じ台の端から実施することは可能だが、着地用補助マットを移動することは出来ない。

#### ②平成25年12月30日付「2013体操競技女子採点規則修正の通知(2014年1月版)」について

- ・跳馬について
  - (イ)「もし選手が、助走を全く試みなかった場合、“得点なし”とみなし、順位も出ない。  
“得点なし”：
    - ・助走をしなかった
    - ・立ったまま跳躍台や跳躍板に触れる、または審判員に挨拶する

### 【以下の内容に変更】

- ・跳馬について
  - (イ)もし選手が、跳躍を全く試みなかった場合、“得点なし”とみなし、順位も出ない。  
「跳躍を試みない」とは、
    - ・演技台、助走路に姿を見せない。
    - ・立ったまま跳躍台や跳躍板に触れ、審判員に挨拶する。

補足：跳躍を試みなかった場合に“得点なし”となるため、距離の長短に関わらず、跳躍を試みようとする助走なのか、そうでないか見極め、跳躍を試みる助走でない場合“得点なし”と判断する。跳躍を試みようとしたが、跳躍できずに跳躍台や跳躍板に触れた場合は採点規則通り無効(0.00)となる。  
なお、国内の競技会においては、主催の各連盟によって対応が異なるため、各競技会の対応を確認してください。

## 【2013 FIG 採点規則の変更、修正、追加】

\*以下に記載されていない変更はページ差し替え参照

頁	章 節	変 更 前	変 更 後
P4	2.4 条 減点 左側ページ 5 行目～	a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる； 行動に関する違反は-0.30、器械器具に関する違反は-0.50 これらの減点は必要があれば上級審判部へ通知し、審判長または D 審判員によって最終スコアから減点される。	<b>【赤字部分変更】</b> a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる； 行動に関する違反は-0.30、器械器具に関する違反は-0.50 これらの減点は <b>D 審判団から報告された場合、審判長によって最終スコアから減点される</b>
P 19	7.4.1 直接 の組み合わせ と間接の組み 合わせ 右側ページ	直接の組み合わせとは、技が以下のような実施なしに行われたものをいう： a) 技と技の間に躊躇や止まり b) 技と技の間に余分なステップ c) 技と技の間で足が台に触れる d) 技と技の間でバランスを失う e) 2つ目の技のために踏み切る前の1つ目の技の脚/腰の曲げ伸ばし f) 技と技の間で余分な腕/脚の振り	<b>【赤字部分 変更と追加】</b> 直接の組み合わせとは、技が以下のような実施なしに行われたものをいう： <b>a) 技と技の間に止まり</b> b) 技と技の間に余分なステップ c) 技と技の間で足が台に触れる d) 技と技の間でバランスを失う e) 2つ目の技のために踏み切る前の1つ目の技において <b>明らかな</b> 脚/腰の曲げ伸ばし f) 技と技の間で余分な腕/脚の振り
P 23	8.3 一般欠点 と減点表	<b>【D 審判団から上級審判部へ通知し審判長によって最終スコアから減点】</b> 一許可なく競技場を離れるまたは競技終了までの競技場へ戻ることに関する違反	<b>【赤字部分変更】</b> <b>競技場から離れたことで競技が完了できない</b>
P 24	8.3 一般欠点 と減点表	<b>【計時審判員から書式通告によるD 審判団の減点】</b> 最終スコアから	<b>【赤字部分追加】</b> 最終スコアから <b>(計時審判員からの通告を受けて)</b>
P 24	8.3 一般欠点 と減点表 上から 10 行目	<b>【計時審判員から書式通告によるD 審判団の減点】</b> 一赤ライトの点灯中に演技を開始する	<b>【赤字部分追加】</b> 赤ライトの点灯中または <b>合図がないのに</b> 演技を開始する

P 26	9.2 平均台 とゆか  左側ページ 19行目	ダンス系の技のひねりの承認  ● ひねりは正確に完了されなければならない。 ● 肩と腰の向きで決定され、そうでなければ難度表にある異なる技となる。	<b>【赤字部分追加】</b> ダンス系の技のひねりの承認  ● ひねりは正確に完了されなければならない。 ● 肩と腰の向きで決定され、そうでなければ難度表にある異なる技となる。  <b>ゆか：ひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープの技が、難度表にある他の技に直接組み合わせられた場合、最初の技が正確にひねりを完了しなくても、その次の技へ続けることができた場合は、その技の難度値は下がらない、または難度表にある他の難度になることはない。</b>
P 28	9.3 ダンス系の技での特別な要求の抜粋 左側ページ 5行目	輪とび（リープ）／脚交差した前後開脚からの輪とび（ひねりを伴う／伴わない） 承認要求： <u>D 審判団</u> ・後ろ足が肩より低い／または前脚が水平より下 －1つ下の難度	<b>【赤字部分変更】</b> 輪とび（リープ）／脚交差した前後開脚からの輪とび（ひねりを伴う／伴わない） 承認要求： <u>D 審判団</u> ・後ろ足が肩の <b>高さ</b> ／または前脚が水平より下 －1つ下の難度

## 【採点規則集の補足説明】

### 第2章 1条

#### 選手の権利

ゆか：少なくとも演技の半分が実施され音楽が止まった場合、選手が演技を続ければ審判は音楽が止まっている状態で実施された演技部分の音楽や芸術性の減点は適用しない。

### 第8章

#### 着地での欠点

#### 跳馬／ゆか

#### ライン減点：

－選手の片足が境界線の外側へ踏み出た後、境界線の内側へ戻し、その後再び同じ足もしくは別の足が外側へ踏み出た場合 －0.20 （－0.10の減点が2回）

－境界線の外に膝がついた場合 －0.30 （身体の一部が踏み出る）

#### 平均台：

－選手が、平均を保つための余分な動き（-0.50の減点）の後、平均台をつかんだ場合（-0.50の減点）、減点は最大-0.50のみ。

－選手が、平均を保つための余分な動き（-0.50の減点）または深いしゃがみ立ち（-0.50の減点）の後、余分なステップ（-0.10+ -0.30の減点）がある場合、減点は最大-0.80のみ。

平均台／ゆか：

－しゃがみ立ちでのターンのあと、バランスを崩したり、座ったり倒れてしまう場合、  
バランスの欠如 -0.10/0.30 の減点を適用

第 12 章：

片足踏み切り前後開脚とび、または前へ脚交差した前後開脚とび+アウエルバッハ宙返りの  
組み合わせ：

組み合わせ点を得るためには、浮脚を後方へ振り戻してはならない。

## 2.4 条 減点

- a) 第2章および第3章に示された行動に関する違反の減点は、中欠点または大欠点となる；  
行動に関する違反は-0.30、器械器具に関する違反-0.50  
これらの減点は**D審判団から報告された場合、審判長によって最終スコアから減点される。**
- b) 減点の一覧表は8. 3条にも示されている。
- c) 特に記載されている場合を除き、これらの減点はD<sup>1</sup>審判員によって演技の最終スコアからされる。
- d) 違反が悪質な場合、選手またはコーチは特別なペナルティーとして競技会場から退場させられることもある

行動に関する違反 D審判団の報告により上級審判部が減点	
違反	ペナルティー
服装違反 ・不適切あるいは美的でないパット使用 ・自国のマークが付いていない ・ゼッケンが付いていない ・不適切な服装 -レオタード、装飾類、包帯の色	0.30 選手/当該種目の最終スコアから (その競技の間1回のみ-上級審判部)
団体競技に適用される服装規定の違反 ・レオタードが同一でない(同じチームの選手)	1.00 <b>競技 I, IV</b> <b>各競技の発覚した最初の種目から</b> <b>1回-上級審判部</b>
演技後再び演技台に上がる	0.30 上級審判部が最終スコアから
<b>不当に演技台にとどまる</b>	<b>0.30 上級審判部が最終スコアから</b>
規律なく乱暴な行動をとる	0.30 上級審判部が最終スコアから
広告違反	0.30 上級審判部によって当該種目の最終スコアから 広告表示に関して要請があれば ・チーム ・選手(個人)
表彰式に参加しない	チームおよび個人の成績、最終スコアは無効(上級審判部によって)

器械器具に関する違反	
違反	ペナルティー
不適切なマグネシウムの使用、または器械器具の損傷	0.50 上級審判部によって最終スコアから
跳躍板のスプリングの配列を変える、または取り外す	0.50 上級審判部によって最終スコアから
許可なく器械の高さを変える	0.50 上級審判部によって最終スコアから

## 2.5 選手宣誓(FIG 競技規則 7.12.2)

「私は、すべての選手の名において、我々がこの大会を律するルールを尊重し、これを守り、ドーピングを行わず、また薬物を使用せず競技に全力で取り組み、真の意味でのスポーツマンシップにおいて、スポーツの栄光とチームの名誉のためにこの大会に参加することを宣誓いたします。」



【新技】2014年第2回ユースオリンピック、2014年第45回世界選手権における新技

種 目	No.		難度	シンボルマーク	U R L
U B	3.402	高棒懸垂～前振り出し1/2ひねり低棒とび越し～低棒倒立または1/2ひねり	D		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=dfZNFUmGUxU">https://www.youtube.com/watch?v=dfZNFUmGUxU</a>
B B	1.103	台を支持して踏み切り、手支持で3/4ひねり～縦向きに大腿部で座	A		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=PaZVwZLs0SE">https://www.youtube.com/watch?v=PaZVwZLs0SE</a>
	1.204	台の横へ、後ろ向きで両足踏み切り、開脚屈身姿勢で台をとび越し正面支持	B		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=emkUDTon0uw">https://www.youtube.com/watch?v=emkUDTon0uw</a>
	1.215	台の横へ、側方開脚伸身宙返り～正面支持	B		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=xP5nBex9F3A">https://www.youtube.com/watch?v=xP5nBex9F3A</a>
	4.208	台の下をつかみ、開脚屈身姿勢で横転、座の姿勢へ	B		
	5.512	片足踏み切り、側方かかえ込み宙返り1/2ひねり、横向き着台	E		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=3pJ64Ch-AIM">https://www.youtube.com/watch?v=3pJ64Ch-AIM</a>
F X	1.409	両足踏み切り、前後開脚とび1回ひねりから輪  (もし、ひねりが正確に完了しなかった場合、両足踏み切り、前後開脚とび1/2ひねりから輪(B)と判断される)	D		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=BjCZkIn4mPc">https://www.youtube.com/watch?v=BjCZkIn4mPc</a>
	2.503	180度開脚した浮脚の上方をターンの始めから終わりまで手で保持した3回ターン	E		<a href="https://www.youtube.com/watch?v=PXS1NkmG09E">https://www.youtube.com/watch?v=PXS1NkmG09E</a>

	↘	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
1. ↑	01	L L						
	02	U U	∩					
	03	∠ ∠	∠ ∠					
	04	∩ ∩	∩ ∩	∩				
	05	∩						
	06	∩	∩ ∩	∩				
	07		∩ ∩	∩ ∩	∩			
	08		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩			
	09				∩ ∩	∩ ∩		
	10		∩ ∩	∩ ∩	∩			
	11				∩ ∩	∩ ∩		
2. ∩	01	∩	∩ ∩ ∩	∩	∩			
	02		∩ ∩	∩ ∩				
	03			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩		
	04	∩			∩ ∩	∩ ∩		
	05	∩ ∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩		
	06			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	07			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
3. ∩	01		∩ ∩ ∩	∩	∩ ∩ ∩			
	02				∩ ∩ ∩	∩ ∩		
	03				∩ ∩ ∩	∩ ∩ ∩		
	04			∩	∩	∩	∩	
	05				∩ ∩ ∩	∩ ∩ ∩		∩ ∩ ∩
	06		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩		
	07			∩ ∩	∩ ∩			
	08			∩ ∩ ∩	∩ ∩ ∩	∩ ∩ ∩		∩ ∩ ∩
	09			∩ ∩ ∩	∩ ∩ ∩			
	10			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩		

	↘	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700
4. X	01	⊗	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩			
	02		⊗	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	03	⊗			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	04	⊗		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	05			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	06	⊗			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	07	⊗			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	08			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	09			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
5. ∩	01	⊗		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	02		∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	03			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	04	∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	05	∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	06	∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	07		∩ ∩	∩ ∩				∩ ∩
	08	∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	09				∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
6. ↓	01	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	02	∩ ∩		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	03			∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	04	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	
	05		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
	06				∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
	07				∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
	08	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
	09		∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩	∩ ∩
	10		∩	∩ ∩	∩ ∩			

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
1.01	∠	∠	∠				
1.02	∠						
1.03	∠	∠	∠				
1.04		∠	∠				
1.05	∠		∠				
1.06	∠						
1.07	∠						
1.08	∠	∠	∠				
1.09		∠	∠		∠		
1.10		∠	∠				
1.11		∠	∠	∠			
1.12			∠	∠			
1.13		∠	∠	∠			
1.14	∠	∠	∠		∠		
1.15		∠			∠		
1.16				∠	∠	∠	∠
1.17			∠	∠	∠		
1.18				∠	∠	∠	∠
1.19					∠		

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
2.01	∠	∠	∠	∠			
2.02	∠	∠	∠	∠	∠	∠	
2.03	∠	∠	∠				
2.04		∠	∠				
2.05			∠	∠			
2.06			∠	∠			
2.07	∠	∠	∠	∠			
2.08	∠	∠		∠	∠		
2.09		∠	∠				
2.10	∠	∠					
2.11	∠	∠	∠	∠			
2.12	∠	∠	∠	∠	∠		
3.01	∠	∠	∠	∠	∠		
3.02			∠	∠	∠		
3.03			∠	∠	∠		
3.04			∠	∠			
3.05		∠		∠			
3.06	∠	∠	∠				
3.07		∠	∠	∠	∠		
3.08		∠	∠				
4.01	∠						
4.02	∠	∠					
4.03	∠	∠	∠				
4.04	∠	∠					
4.05		∠					
4.06		∠					
4.07		∠					
4.08	∠	∠	∠				
4.09	∠	∠	∠				
4.10	∠	∠	∠				
4.11		∠	∠				

	A-100	B-200	C-300	D-400	E-500	F.600	G.700
5.01		∠	∠	∠			
5.02		∠					
5.03		∠	∠	∠			
5.04			∠	∠			
5.05		∠	∠	∠			
5.06			∠	∠	∠		
5.07		∠		∠			
5.08		∠	∠	∠			
5.09				∠	∠		
5.10				∠			
5.11			∠	∠	∠	∠	∠
5.12				∠	∠	∠	∠
5.13			∠		∠	∠	∠
5.14			∠		∠		
6.01	∠	∠	∠	∠			
6.02	∠	∠	∠	∠	∠	∠	∠
6.03		∠	∠				∠
6.04	∠	∠	∠	∠	∠	∠	∠
6.05				∠	∠	∠	∠
6.06	∠	∠	∠	∠	∠	∠	∠
6.07		∠	∠	∠	∠	∠	∠

	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600
1. —	01					
	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					
	08					
	09					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
2. ○	01					
	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					
	08					

	A - .100	B - .200	C - .300	D - .400	E - .500	F - .600	G - .700	H - .800	I - .900
3. =	01								
	02								
	03								
	04								
	05								
	06								
	07								
4. ∅	01								
	02								
	03								
	04								
	05								
5. ∅	01								
	02								
	03								
	04								
	05								
	06								

# 段違い平行棒

**3.402**  
高棒懸垂～  
前振り出し1/2ひねり  
低棒とび越し～低棒倒立  
または1/2ひねり

# 平均台

**1.103**  
台の横に立ち、両足踏み切り、閉脚  
入れ、背面支持、または上向き転向  
1/2ひねり背面支持

台を支持して踏み切り、手支持で  
3/4ひねり～縦向きに大腿部に座

**1.204**  
台の横へ、とび上がり1/2ひねり開  
脚浮腰支持、または台の横へ、後  
ろ向きで両足踏み切り、開脚屈身  
姿勢で台をとび越し正面支持

**1.215**  
台の横へ、踏切板上の手支持によ  
る前転とび、背面支持または1/4  
ひねりから大腿部に座

台の横へ、前方開脚伸身宙返り、  
背面支持、または1/4ひねり、  
大腿部に座  
または側方開脚伸身宙返り～  
正面支持

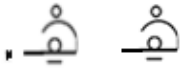
**4.208**  
左右開脚から閉脚伸身で横転（終わりの姿勢は自由）  
台の下をつかみ、開脚屈身姿勢で横転、座の姿勢へ

**5.512**  
片足踏み切り、側方かかえ込み  
宙返り1/2ひねり、横向き着台

# ゆか

1.409

片足踏み切り、または  
両足踏み切り、前後開脚とび  
1回ひねりから輪



前へ脚交差した前後開脚とび  
1/2ひねりから輪



2.503

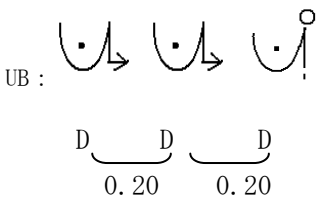
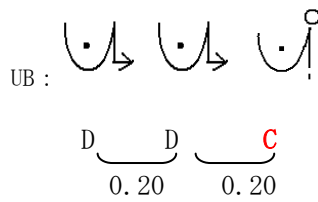
180度開脚した浮脚の上方をターンの  
始めから終わりまで手で保持した  
3回ターン



1080°



## 【日本語版ヘルプデスクの訂正】

頁	章 節	訂 正 前	訂 正 後
P 10	7.4.2 組み合わ せ点の為の技 の繰り返し 一番下の左側	 <p>UB :</p> <p>D      D      D 0.20    0.20</p>	<p>【赤字部分修正】</p>  <p>UB :</p> <p>D      D      C 0.20    0.20</p>
P 14	・ 正確さ (跳馬、 段違い平行棒、平均 台とゆかのアクロ バット系の技の み) : 各 0.10 四角の枠の中	<p>後方伸身宙返り 3 回ひねり (1080° )</p> <p>— もし、両足が正確にひねりを完了されなかった場 合 : 2 回半ひねり (D) と判断し、正確さ - 0.10</p>	<p>【赤字部分追加】</p> <p>後方伸身宙返り 3 回ひねり (1080° )</p> <p>— もし、両足が正確にひねりを完了されなかった場合 : 2 回半ひねり (D) と判断し、<b>不正確な実施に対して</b> 正確さ - 0.10</p>
P 36	9.4.3 ひねりを 伴わない回転 系の技 E 審判団の角度	<p>倒立からの逸脱 :</p> <p>11 度 — 30 度      0.10 減点</p> <p>11 度 — 45 度      0.30 減点</p> <p>45 度より低い      0.50 減点</p>	<p>【赤字部分修正】</p> <p>倒立からの逸脱 :</p> <p>11 度 — 30 度      0.10 減点</p> <p><b>31</b> 度 — 45 度      0.30 減点</p> <p>45 度より低い      0.50 減点</p>
P 37	9.4.3 高棒から 低棒へ倒立す る空中局面を 伴う技 一番最後の項 目	<p>*もし選手が低棒を握り、低棒を越えてその後に落下 (<b>棒間</b>) した場合、次の技に続けることができなく ても、難度は与えられる。</p> <p>採点規則の 9.4.3、ひねりを伴わない回転系の 技と高棒から低棒へ倒立する空中局面を伴う 技に従う。</p>	<p>【赤字部分修正】</p> <p>*もし選手が低棒を握り、低棒を越えてその後に (<b>低棒の外側</b>) 落下した場合、次の技に続けることが できなくても、難度は与えられる。</p> <p>採点規則の 9.4.3、ひねりを伴わない回転系の 技と高棒から低棒へ倒立する空中局面を伴う 技に従う。</p>

## 【変更規則の修正について】

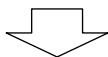
2013年版採点規則・変更規則について下記の通り修正し、この通知をもって適用といたします。

### 採点規則集 変更規則Ⅱ (変更)

<短い演技>

D審判員は最終スコアから短い演技の適切な減点をする。

- ・ 6技以上 = -0.00
- ・ 5技 = -4.00
- ・ 4技 = -5.00
- ・ 3技 = -6.00
- ・ 2技 = -7.00
- ・ 1技 = -8.00
- ・ 技がない = -10.00



D審判員はEスコアから短い演技の適切な減点をする。

- ・ 6技以上 = -0.00
- ・ 5技 = -4.00
- ・ 4技 = -5.00
- ・ 3技 = -6.00
- ・ 2技 = -7.00
- ・ 1技 = -8.00
- ・ 技がない = -10.00



## 平成 26 年度女子体操競技全国代表審判員研修会 質疑応答

### －交差輪とび

Q. 「後ろ足が肩の高さで1つ下の難度 -0.10」とありましたが、後ろ足が肩より低い場合、難度承認はどうなりますか？また減点はどうなりますか？

A. D 審判は、後ろ足が肩の高さでも肩の高さより低くても1つ下の難度として承認、E 審判は、後ろ足が肩の高さ（それより低い） -0.10 の減点をします。

### －中間振動

Q. 棒に足が当たった後、数回スイングした場合、中間振動-0.50 の減点のみか、中間振動-0.50 の減点に足が器械にあたる-0.50 の減点が追加されるのか？

A. 段違い平行棒の演技中、もし、「内容のない振り」「中間振動」の減点が発生した場合、実施減点は追加されないのので、例えば中間振動の際膝曲がりなどの姿勢欠点があっても、棒に足が当たっても中間振動の-0.50 の減点のみとなります。質問の例の場合、足が器械にあたってから中間振動になっても同様に中間振動のみの減点となります。

### －平均台 1. 3 1 2（後屈して、脚を水平に保った倒立）

Q. 後屈し、脚が水平に足らず垂直から 45° くらいで静止が見られた場合、C 難度で承認できますか？また静止が 2 秒に満たない場合はどうなりますか？

A. 実施された技に技術的な失敗があった場合（難度表に記載されてある技術要求が満たされない場合）、難度表にある異なる技、または難度なし、または採点規則第 9 章で特別な記載があれば1つ下の難度として判断されます。  
また、静止が 2 秒に満たない場合は、採点規則第 12 章(p40)姿勢保持系の説明に記載してある通り、もし 2 秒の静止がなく採点規則に別の技としても記載がされていなければ、1つ低い難度となります。

### －平均台 台上での転倒

Q. 平均台の技の着台について、股打ちした場合、（落下していない）減点は-1.0 ですか？

A. 器械上での転倒も、「落下または器械にもたれる -1.0」の減点となります。

### －平均台 横向きの動き

Q. 横向きの動きは、どれくらい移動すれば、どれくらい動きを組み合わせれば減点なしとなるか？

A. 原則は、「移動」を伴う「動き」の「組み合わせ」であること。移動の距離などは規定されていないが、その場での動きではこの条件は満たすことは出来ないので、動きと動きを組み合わせ、その場から少なくとも1歩以上移動することが最低限の条件です。動きの数も規定はないが、組み合わせになるためには少なくとも2つの動きが必要になります。しかし、最低限の条件を満たすだけでなく動きを構成する上で平均台においても明確な動きとはっきりとした移動を組み合わせ、十分に条件を満たせるような構成にすることが望まれます。

#### －ゆか 組みあわせ点

Q. 混合の組み合わせ E 宙返り+A ダンス系 +0.10 で使用できる技はジャンプのみか、ターンも使用することができますか？

A. 採点規則上では、A 難度のダンス系の技の特定の記載はありません。

#### －ゆか ダンス系の技の承認について

Q. ひねりを伴うダンス系の跳躍技（ジャンプ、ホップ、リープ）が次の技に続くことができた場合、最初の技は難度は下がらないという説明について、次の技はひねりを伴っていないかともよいのか？

A. ひねりを伴うジャンプ、ホップ、リープの技が、難度表にある他の技に直接組み合わせられた場合、最初の技が正確にひねりを完了しなくても、その次の技へ続けることができた場合は、その技の難度価値は下がらない。次に続く技にはひねりを伴うか伴わないかの指定はなく、難度表に記載されてある技であればよい。

#### －ゆか「アクロラインの前の1回より多い両足立ち」

Q. 両足を前後に少し離して立った後、片足を上げてアクロラインにつなげた場合、「アクロライン前の1回より多い両足立ち」－0.1の減点は発生しますか？一度片足になってポーズをとったが、技に行く前に両足になってしまった場合、減点するのでしょうか？

A. いろいろなパターンを想定することができますが、まず基本的な考え方として、アクロラインの前でもアクロラインを実施するために止まらず、明確な振り付けになっていることが求められています。質問の最初の例の場合、両足を前後に少し離している姿勢が審判から見て両足で立っていると判断されてしまうのかどうか、その動きが意味のある明確な振り付けになっているのかどうか、主旨を理解して判断することが必要になると思います。2つ目の例の場合も、アクロラインの前に両足で立ち、アクロラインの準備をする姿勢をせず、振り付けの流れからアクロラインに移行することが求められているため、ポーズの後にアクロラインのために両足立ちをしていると判断される実施なのかどうか、実施を見極める必要があると思います。